

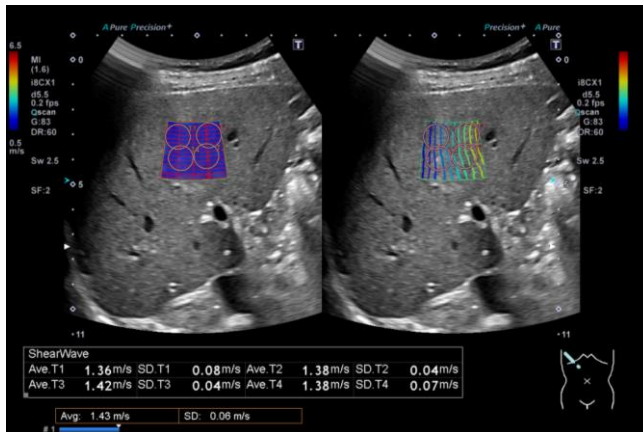
超音波検査とは

人の耳では聞くことのできない 20,000Hz 以上の周波数の音を超音波と呼びますが、診断用で使用される超音波は 2~20MHz (2,000,000~20,000,000Hz)を使用します。体表から超音波を当てて、その反響を映像化し、体内の状態を観察する検査です。

X線と違い放射線の心配もなく、また痛みなどありません。装置が小型で、簡便であり、腹部・表在臓器(甲状腺・乳腺など)・心臓・胎児など、ファーストチョイスの検査として幅広く使用されています。中央放射線科で行う主な超音波検査は、腹部・表在臓器(甲状腺・乳腺・皮下腫瘍など)・四肢血管・頸動脈です。

・腹部超音波検査

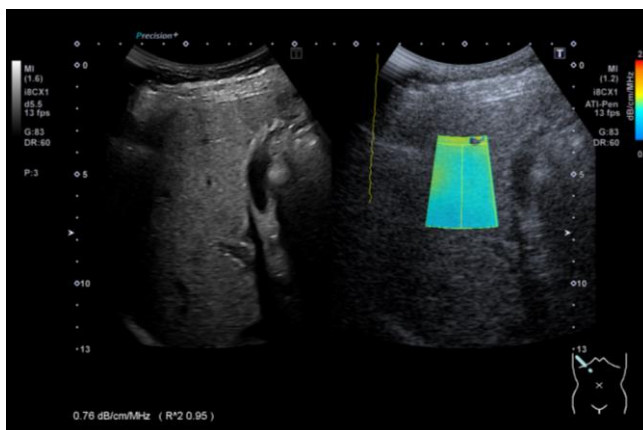
肝臓・膵臓・胆のう・腎臓・脾臓・消化管・膀胱・前立腺などの臓器を調べます。検査する臓器によりますが、基本的に空腹時での検査になります。



・超音波検査の新しい機能①

【肝硬度測定】

肝臓内の超音波の速度を測定し、肝臓の硬さを評価します。肝臓が硬くなるほど超音波の速度が速くなります。



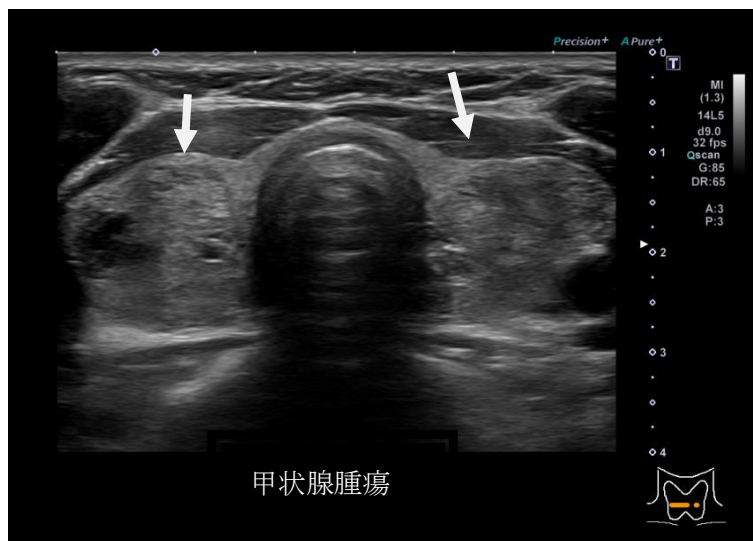
・超音波検査の新しい機能②

【減衰測定】

肝臓内の超音波の減衰を測定し、肝臓の脂肪化を評価します。脂肪化が強いほど超音波の減衰が大きくなります。

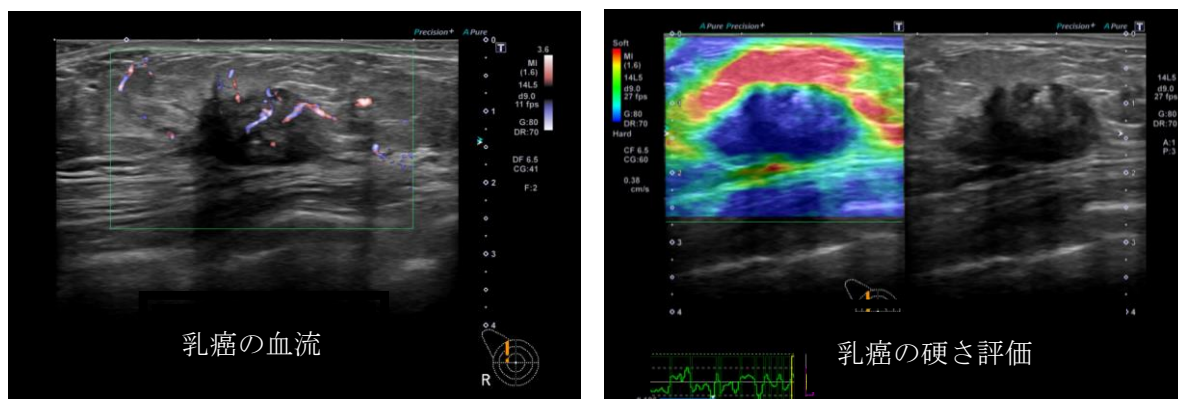
・甲状腺、頸部超音波検査

甲状腺、唾液腺の形状、腫瘍などの有無を調べます。



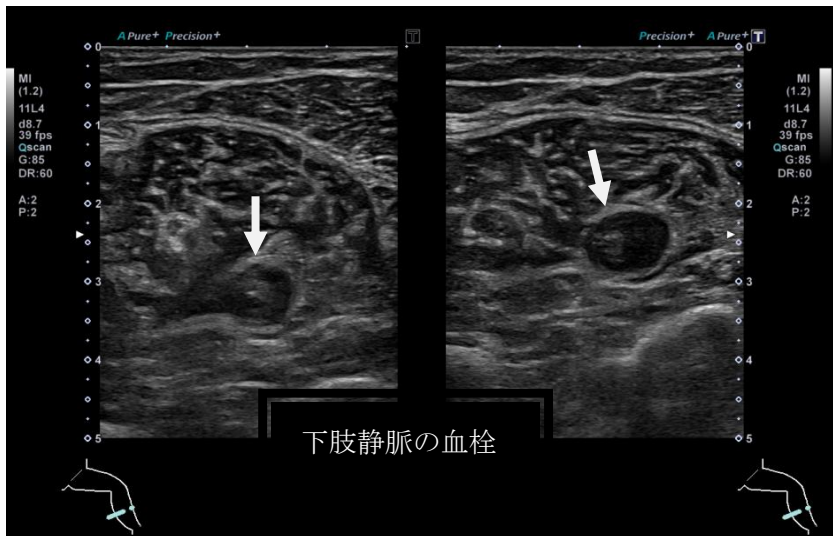
・乳腺超音波検査

乳腺の腫瘍の有無、腋下リンパ節の有無などを調べます。腫瘍の硬さや血流の評価も行っています。



・下肢静脈超音波検査

足の付け根からふくらはぎまでの静脈に血栓や静脈瘤などがいないか調べます。下肢のむくみがある場合や手術前の検査として行います。



中央放射線科の超音波装置について

超音波装置の進歩は著しく、現在使用している装置ではすべての部位で高画質、カラードップラー、パワードップラーにより、容易に血流の情報もわかり、肝臓や腫瘍の硬さの計測も行えるようになりました。人体に対し無害で、繰り返して使用できます。検査時間は検査部位によって異なりますが、約10～30分程度かかります。

エコー室 1 番 Canon メディカル Aplio I800 2017 年導入

エコー室 2 番 Canon メディカル Aplio i700 2023 年導入

Aplio i-series

Prism Edition



取得専門資格

認定資格	認定機関	取得人数
超音波検査士(消化器)	超音波医学会	2
超音波検査士(体表)	超音波医学会	2
超音波検査士(検診)	超音波医学会	1
超音波検査士(泌尿器)	超音波医学会	1